

まえがき

本書が今回このような形で刊行されることとなったそもその経緯は、日本武術や中国武術の稽古研究団体である「身法研究会」を主宰され、人と人との間をとり結ぶことにおいても妙を得られている小用茂夫氏が、この岩波書店に勤務されていたことによる。

小用氏は、普段はオフィスの中で気配を消して柔軟に人との間合いをとりつつ実は武術練功の士である、というまるで小説の中に出てくるような人物であり、私が尊敬する三十年來の友人でもある。

その小用氏との何気ないやり取りがキッカケで、本書は俄かに企画が具体化した。しかし具体化してから刊行日までの余裕がなかったため、行き届かない点も多いが、私にとっては数年ぶりの書き下ろしの本であり、極力平易に私の考えをまとめたつもりなので、初めて私の考えに接する方には御参考になる点もあるかと思う。

なお本書の原稿に関しては、豊田市で運動脳力開発研究所を開かれている栢野忠夫氏に、

私から話を引き出す役をつとめていただいた。

栢野氏とは昨年御縁ができたが、既成の運動理論の枠に縛られぬ自由な発想と、緻密な観察眼の持ち主で、おそらくこれからのスポーツ界では貴重な存在になられると思う。出会って日も浅いのに、よく私からさまざまな話を引き出して下さったと思う。刊行までの時間が限られていたため、本書ではそれが生かされておらず申し訳なく思っている。お世話になったことに改めて感謝の意を表したい。

また、本書で取り上げさせていただいた巨人軍の桑田真澄投手、桐朋高校バスケットボール部の金田伸夫監督、長谷川智コーチをはじめとする指導の先生方、そして現役の部員及びOBの諸氏、日本の射撃のナショナルチームの藤井優監督といった方々にも同じく御縁をいただいたことに深く感謝の意を表したい。

癸未之年 正陽

甲野善紀

目次

まえがき

第一章 今に生きる古武術 1

1 桑田投手新生の軌跡 3

2 バスケットボールと古武術 31

第二章 古武術とは何か 43

1 古武術と現代武道 45

2 武術との出会い 59

3 井桁崩しの発見 78